年次報告書

（ホームページ掲載版）

2019 年度活動報告

2020 年度活動計画

2020 年 4 月

特定非営利活動法人

サヘルの森

〈 目 次 〉

はじめに ･･･ 1

2019 年度現地活動報告･･･ 2

2020 年度現地活動計画（2020 年 1 月～12 月）･････････････････････････････ 9

国内活動－2019 年度活動報告・2020 年度活動計画 ･････････････････････････ 11

運営委員・監事名簿（2020 年）･･･ 16

＜表紙の写真＞
穀物畑に植えられたジリマスギ村のバオバブ
（4～5 年前に村人が配布苗を植樹）
＜裏表紙の写真＞
配布苗をうれしそうに抱える女の子

はじめに

2019 年 12 月、アフガニスタンで活動していた NGO ペシャワール会の中村哲さんが銃撃され亡くなられました。長年にわたり、住民の生活向上のために、現地で農業支援などを行って大きな成果をあげていました。ご冥福をお祈り致します。

人々は、それぞれの国・地域の歴史、文化のもとで暮らしており、生活事情も様々です。経済格差、差別等の問題を抱えています。また、生活資源の家畜放牧空間、薪炭採取地の減少等により、村どうしや民族間のあつれきも出てきています。

人々の生活の安定化、不安の解消は、なかなか実現が難しい現状ですが、少しずつでもよりよい環境が出来ることを期待して活動したいと思います。

目的

当会は、西アフリカの内陸にあるマリ共和国で、サヘル地域の砂漠化を防止して、そこの住む人々が安定した生活を築けるように協力することを目的として、1987 年に発足しました。サヘルに生きる人々の暮らしが根付けば砂漠が芽吹くと考えています。

活動地マリ共和国

マリへの航路は、エチオピア航空が 2015 年から成田に乗り入れ、成田―アジスアベバ(16 時間)、アジスアベバ―バマコ(7 時間)のルートが開設されて、少し便利になりました。

国土面積は 124k ㎡(日本の 3.3 倍)ですが、半分以上が砂漠です。人口は 1,854 万人(2017、世銀)、バンバラ族、プル族、マリンケ族、トゥアレグ族など 20 以上の民族が混在します。宗教はイスラム教(80%)、伝統的宗教、キリスト教などです。一人当たりの総収入は 770 ドルで 2 ドル/日の生活です。

主要産業は農業(綿花、コメ、ソルガム、ミレット)、畜産、鉱業(金)です。農業、畜産は、天候や一次産品の国際価格の影響を受け、経済基盤は脆弱です。マリは、南ア、ガーナに次ぐ金の生産国ですが、マリ政府の権益は 20%です。

マリの気候は、概ね 6~9 月が降水量 100～300 ㎜／月の雨季、年平均気温は 27.9℃、3~5 月の平均が 30℃以上であり、最高気温は 40℃ほどになります。

地形は緩やかで、南西隣国のギニアの山岳地帯に水源を発するニジェール川が南東部のサヘル地域に流入し、大きく向きを変えて、ニジェール国、ナイジェリア国を経て、ギニア湾に流出しています。首都のバマコと北東に約 1 千 km 離れたトンブクトゥの標高差は 116m と小さく、この間には季節的に広大な湿原・湖沼が形成されます。

首都はバマコで、人口は 180.9 万人(2009 年ウィキペディア)とあるので、現在は 200 万人を超えているようです。街中は自動車、バイクが多く、よく渋滞しています。

街の拡大、建築ラッシュが続いています。行政の地方分権化で、郊外では地方行政による土地分譲の売買が進んで、森林・原野が減少しています。街の富裕層が別荘や投資のために土地を購入しているようです。

このような背景の中で、地域に学びながら、村人ができる方法・植える工夫などを考え、里山再生のための緑化などに取り組んできました。

2019 年度現地活動報告

2019 年のマリは、大変厳しい年となりました。マリ北部や中部では、武装集団による治安部隊基地への襲撃が繰り返されました。また、マリ中部の牧畜民と農耕民の衝突は激しさを増し、多くの住民が犠牲となっています。その影響で、ファナ地域にも避難民のキャンプができているのを見ると、現場の混乱ぶり想像できるようでした。さらに年末にはマリ東部や隣接するニジェールやブルキナファソの軍施設が相次いで襲撃され、多数の死傷者が出ています。マリ中部へのマリ国軍や国連軍の増派が行われるなど、事態の鎮静化は図られていますが、なお予断を許さない状況は続いています。首都のバマコでは、こうした事態に、政府などに対する市民による抗議デモが毎週のように繰り返されています。

マリ国内情勢の安定しない状態はなおも続きますが、こうした事件の少ないマリ南部地域で、細心の注意を払い活動を進めています。

2019 年度のマリでの現地活動は、こうした状況の中でも比較的安全なマリ南部の活動地（ファナ、バマコ北部、バマコ南部）に日本人を派遣して行いました。日本人の派遣は計 2 回（5～7 月、8～10 月）行い、日本人不在の期間はマリ人スタッフを現場に派遣し活動を進めました。雨期（5～9 月）を中心に苗木配布や学校林の育成、里山再生の実践などを行い、乾期（1～5 月、10～12 月）には新試験地の設置、配布苗の生育状況の確認、学校林の保護柵補修、里山再生実践の準備（種子採収・育苗）等を行いました。

計画では、**「苗木配布・植林で緑づくり運動の土台を広げ、村人の生活向上を図るとともに、育てた研修実践者と、里山再生等の実践に取り組む」**ことを目標とし、以下のような活動内容で進めていこうとしていました。

・苗木配布・植林で身近な緑づくりと里山再生運動の土台を作り広げる
・研修実践者の里山再生に協力し、里山保護の可能性を探る
・有用樹の育成を進める
・学校林の育成と管理
・日本人スタッフの派遣

以下、項目別に活動を報告します。

①苗木配布・植林で身近な緑づくりと里山再生運動の土台を作り広げる

（1）苗木配布と植林ワークショップ

2019 年度も 5 月下旬～9 月中旬の雨期に各地域で村々を回って苗木配布を行いました。苗木の配布本数は、3 地域合計 70 ヵ所 23,580 本となりました（8 ページ、表４参照）。

2019 年も、雨の降り始めが遅く、6 月下旬にようやくまとまった雨が降るようになりました。少ない雨で道路状況が良く、村へのアクセスは容易で、例年と比較して効率的に配布ができました。

配布苗は、バマコの事務所で育成したものと地域苗畑から購入したものを四輪駆動車に積み、直接村へ運び、住民に配布し、植栽しました。大きな村では 1 回の配布でいきわたらず、2 回配布をすることもありました。地域苗畑からの苗木購入は、できるだけ偏りのないように配慮しました。また、里山再生実践者が苗木作りを始めており、一部で買い取って苗木配布に回しています。

表１　購入先苗畑

地域	苗畑名
バマコ北部 （1 ヵ所）	カマカ
バマコ南部 （6 ヵ所）	バコジゴロニ、バダラブグー、クラレ、サナンコロバ、セベラコロ、カッセラ
ファナ （14 ヵ所）	ファナ 2、ファナ 3、コビリ 1、コビリ 2、ウォロド 1、ウォロド 2、タンバブグー、マルカコンゴ 2、ジェニナ 1、ネレコロコ 1（以上、地域苗畑） カソマブグー1、カソマブグー2、ジェバ 1、ジェバ 2（以上、実践者苗畑）

実践者の苗畑からも苗木購入

（２）生育状況の確認（フォローアップ）

苗木配布と並行して、過去に配布した苗木の生育状況を配布に訪れた村々で確認するようにしています。バマコ北部やファナ地域では活動を始めて 10 年以上が経ち、苗木が大きくなったから見に来てくれと案内されるので、時間の許す限りできるだけ多くの場所を確認しています。また、これまでに所有者と共に植樹したような場所については継続的に訪れ、経年変化を見るようにしています。

確認作業については、村周辺の植樹に関しては比較的容易ですが、中には大きく育っているものの、村から遠く離れた畑などに植えていたり、車が入っていけないところに植えていたりとアクセスが難しい場合も多々あります。ただ、こうした確認作業は双方にとって励みになることですので、今後もできるだけ続けていきます。

写真1-01：菜園中で育ったユーカリやバオバブ《Fn・ｽﾙﾏﾙ》
1-02：畑の脇に植えた 2 年目のグアバ《Bs・ﾌｨﾗﾌﾞｸﾞｰ》
1-03：敷地の中に列状に植えられたエタージュ《Bs・ﾌｧﾗﾀﾞﾗ》

Bn：バマコ北
Bs：バマコ南
Fn：ファナ

写真

1-04：家の脇のバオバブ《Fn、ﾀﾝﾊﾞﾌﾞｸﾞｰ》
1-05：菜園の中のユーカリ《Bn、ﾃﾈﾝｻﾞﾅ》
1-06：菜園に育ったタケ《Fn、ｼﾞｬﾝﾌｧﾌﾞｸﾞｰ》
1-07：家の脇のイピル《Fn、ﾀﾞｷﾞ》
1-08：ｱｶｼｱ･ｾﾈｶﾞﾙ《Fn、ﾌｫﾌｫｼﾞｬﾝ》
1-09：食用となるモリンガ《Fn、ｶﾘﾝｺ》
1-10：ユーカリ《Fn、ｼﾞｮｼﾞｬﾌﾞｸﾞｰ》
1-11：スンスン《Fn、ｿｺﾗﾆ》

②研修実践者の里山再生に協力し、里山保護の可能性を探る

2015 年より 5 年間、苗木配布の過程で見出した、木を育てることに意欲的な村人を、高い技術を持ち実践している地域苗畑主（ファナ地域・3 ヵ所）のところで研修（計 9 回）を行い、9 ヵ村 27 名の篤農家が参加しました。

研修後は、将来的に村での里山再生の取組みの牽引役となることを期待して、苗畑の設置から初め、苗木生産を自身で行い、雨期に自身の所有する里山へ植栽しています。それぞれが所有する里山は様々で、それぞれが自身の里山にあった生産活動を行っています（別表「2019 年里山再生実践者一覧」参照）。

ズィズィフィスの改良種を栽培する実践者は、近隣の町から女性がオート三輪で買い付けに来るようになり、ますます張り切って、台木となるズィズィフィスの在来種が生える新たな土地を果樹園とし、改良種を接木しています。また、ある実践者は新たに植林地とするために、まずは生垣作りをしようと、周囲に苗木を植えています。さらに、植えた苗木に水やりをするために井戸を掘る実践者も多くいて、それぞれが行う里山再生が進んでいます。

また、講師役であった地域苗畑主と実践者の間の交流だけでなく、実践者同士の交流も進んでいます。2019 年度もカソマブグーの実践者一人がウェラクラとジェバを訪れ、それぞれの実践者の里山再生を目の当たりにし、技術交流や意見交換をしました。こうした交流はお互いの刺激になっているようで、今後も継続していきたいと思っています。

ｽﾞｨｽﾞｨﾌｨｽ改良種の接木《ﾊﾞｰﾊﾞ、ｶｿﾏﾌﾞｸﾞｰ村》

植林地に生垣の育成《ﾏﾄﾞｩ、ﾏﾅｺﾛ村》

植林地に掘った井戸《ﾆｬﾈｹﾞ、ｸﾞﾝﾄﾞｩ村》

実践者たちの交流《ﾏﾄﾞｩ、ｳｪﾚｹﾗ村》

③有用樹の育成を進める

１）荒廃地植林

ファナ地域のニヤマトブグー村の許可を得て、10 年以上にわたり、自然に生える樹木の生育戦略にヒントを得ながら、自然森林の回復を目指す試験をしてきました。アリ塚の脇に植えたアカシア・セネガルは高さ 3m 以上にも生長し、そのほかの有用樹も多く植え、時には野火に襲われながらも、着実に生育してきました。

しかし、近年、地方分権化の流れで土地の売買が可能になり、幹線道路沿いの土地は軒並み売却されるようになりました。私たちが行ってきた試験地も例外なく、2019 年にバマコの住民に売却されました。今後は試験地での植栽や管理は一切できず、残念ではありますが放棄せざるを得なくなりました。

試験地での植生回復試験については、里山の質の向上を目指し、在来の有用樹の育成するためにまだまだ試験が必要です。そのため、土地売買の可能性の低い、幹線道路から奥まった村であるカソマブグー村の土地の一部を使わせてもらい、新たな試験地を設けることになりました。

3m 以上に生長したアカシア・セネガル

売却され境杭が立った試験地

（２）チャンガラ実生の保護・生育

薪炭材として最適ともいわれるチャンガラ（*Combretum spp.*）は、都市への薪炭供給のため、過剰に伐採され、今ある潅木も疲弊しつつあります。また、実をつけるまで大きくなる前に伐採されることが多いため、実からの再生産も難しくなっています。これまで、試験地では、草地に紛れているチャンガラの実生を保護・生育するため、雨期に除草し、根元に草本盛土処理をして乾期の乾燥を抑える試みをしてきました。また、2018 年には、除草した後に出る、草や土を積み上げたマウント状に、チャンガラの種子を直播し、次の雨期に発芽したことを確認しています。しかし、前述のように試験地自体が使用できなくなったため、これらの試みは、道半ばにして断念せざるを得ませんでした。

2020 年度は、前述のカソマブグー村の新試験地で、同様のチャンガラ種子直播の試験を始めているので、継続して、チャンガラの育成に取り組んでいきます。

直播して発芽したチャンガラの実生

④学校林の育成と管理（継続）

2019 年度は、新規の 6 校を含む計 8 校（バマコ北部 3 校、バマコ南部 2 校、ファナ 3 校）の小学校に学校林の育成を行いました。近年、保護者を中心とした「学校管理委員会」が学校の運営に関わるようになり、学校林の育成もこの委員会の保護者が深く関わるようになっています。そうした小学校には先生と保護者が責任をもって植樹するとのことで、苗木を渡し、後日植樹してもらっています。しかし、その働きも村ごとに大きく異なり、ある小学校では植えた数日後に家畜による食害に遭い全滅するなど、植樹後の保護管理に大きな課題を残しています。

乾期には大きく育っているものの、家畜除けの保護柵を施していない木に対して保護柵を設置しました。

表２　2019 年の学校林育成

地域	学校名	植栽	規模
バマコ北 (Bn)	ウァソロラ小学校	校庭に列植	3 ヵ村・2 教室・73 名
	ニアマナ小中学校	敷地に列植	6 ヵ村・9 教室・632 名
	ンゴロンゴジ小学校	校庭に列植	？
バマコ南 (Bs)	タンガラ小学校	校庭に列植	4 ヵ村・3 教室・208 名
	セベラコロ小学校	境界に列植	1 ヵ村・3 教室・89 名
ファナ (Fn)	マナコロ小学校	校庭、境界に列植	4 ヵ村・3 教室・67 名
	タンバブグー小学校	敷地に列植	2 ヵ村・2 教室・68 名
	ラミネブグー小学校	敷地に列植	4 ヵ村・3 教室・98 名

学校に苗木を提供《Bn・ﾝｺﾞﾛﾝｺﾞｼﾞ》

柵で苗木を保護する《Fn・ﾏﾅｺﾛ》

苗木を保護する金網設置《Fn・ﾗﾐﾈﾌﾞｸﾞｰ》

植栽後の管理が大切《Bs・ｾﾍﾞﾗｺﾛ》

⑤日本人の派遣

2019 年度も、マリ南部の、日本人スタッフの派遣をして現地活動を行いました。参加人員は延べ 2 人で、滞在期間は延べ約 4.5 ヶ月でした。

表３　2019 年度派遣スタッフ一覧

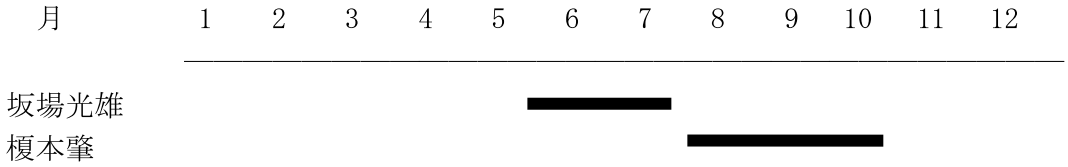

表４　2019 年の活動地域と活動内容一覧

活動地域	主な活動地（町村・学校等）	活動内容	配布本数 主な配布樹種
バマコ（首都）	バマコ事務所	苗畑：有用樹苗・稚苗育成	在来種多数
クリコロ州**バマコ北部** 配布：13ヵ所 苗畑：1ヵ所	カバコ・カバロ、テネンザナ、ダバブグー、ドゥラコニアマナ小中学校、ウァソロラ小学校、ンゴロンゴジ小学校	苗木配布 学校林育成	３，４６０本 ユーカリ、バオバブ、ニーム、エタージュ、モリンガ
クリコロ州**バマコ南部** 配布：14ヵ所 苗畑：6ヵ所	バンドゴ、ファラダラ、ファラコダラニ、ンパンコ、バガ セベラコロ小学校、タンガラ小学校	苗木配布 学校林育成	４，６９０本 ユーカリ、バオバブ、カシューナット、ノキ、モリンガ、アルヘンナ
クリコロ州**ファナ** 配布：43ヵ所 苗畑：12ヵ所	ジェン、スルマル、カリンコ、ジャンファブグー、ジョジャブグー、ソコラニ カソマブグー、ニヤマトブグー、タンバブグー、ジェバ、ウェラクラ、グェンドゥ、ラジブグー、マナコロ、チチュア マナコロ小学校、ラミニブグー小学校、タンバブグー小学校 ニヤマトブグー、カソマブグー（新規） モテル・デ・ムレン	苗木配布 里山再生研修と実践 学校林育成 荒廃地植林試験 見本林	１５，４３０本 ユーカリ、バオバブ、カシューナット、ノキ、アカシア・セネガル、カイセドラ
合計			**２３，５８０本**

2020 年度現地活動計画（2020 年 1 月～12 月）

助成金や募金が潤沢ではないこともあるので、限られた予算を出来るだけ有効に使い、活動したいと思います。

2020 年度の活動方針は、**「村人の菜園や学校の緑づくりで緑の拠点創出に寄与すると共に、これまでの研修実践者、地域苗畑主とともに里山再生に取り組む」**とします。

活動地域はバマコ北、バマコ南、ファナ地域を予定しています。

活動目標は次の 5 点です。

・苗木配布で緑の拠点づくり支援と緑化人材育成
・里山再生の実践を進める
・荒廃地・原野の回復の技術開発試験を実施する
・緑の拠点としての学校林の樹木育成を進める
・日本人スタッフを派遣する

その具体的な内容は次のとおりです。

① 苗木配布で緑の拠点づくり支援と緑化人材育成

苗木配布で村人が緑を育てる意欲、有効性を実感できるように進めます。村人の菜園は、配布した苗木の生育場所となっており、適度な管理と補植で緑の拠点となるように協力します。その中から将来の里山再生の実践者を見出していきます。

菜園に育った小さな林

② 里山再生の実践を進める

これまでの里山再生実践者、地域苗畑主とともに、住居や農地周辺、原野などで、植林、樹木の育成、保全等を進め、里山再生を実践します。現場で里山再生の技術を磨き、これまでのフォローアップを行うとともに、それぞれの現場での問題に対応しながら協力していきます。地域の里山管理を見据えて、課題や方策を探ります。

③ 荒廃地・原野の回復の技術開発試験を実施する

永年栽培植物の利用

これまでのファナの試験地が使えなくなったため、新たな場所で荒廃地、原野の回復試験を行い、応用可能な技術と知見を探っていきます。カソマブグー村の荒廃地でおこなう予定です。平坦地ばかりでなく傾斜地の裸地・原野もありますので、土砂・有機物の流出防止、樹木・植生への集水法、永年栽培植物や野生植物による浸食防止対策など土・水を溜めて土地の回復効果を検討します。住民から要望のある在来有用樹の種子採取、播種、苗木育成を図り、生活の向上と里山再生に役立てます。

④ 緑の拠点としての学校林の樹木育成を進める

村にある学校などを対象に、緑陰木植栽や周辺の生垣づくりを進め、緑の拠点づくりで教育環境の向上を図ります。それぞれの村にある学校運営委員会、村人との協力体制づくりが不可欠です。できるだけ村人自らの力で実施できるように工夫をして、食害の防止軽減、資材の有効活用を図りたい。学校周辺の生垣は家畜に食われにくいバカウ（ナンヨウアブラギリ）などで進めていきます。

生垣として使われるバカウ

⑤ 日本人スタッフの派遣

これらの課題を実行するために、日本人スタッフを派遣します。2020 年の派遣は 2 名延べ 4.5 ヵ月を予定しております。助成金の採否にも関わりますが、次年度(2021 年)1～2 月には 1 名 1 ヵ月の派遣を予定しています。

表５　2020 年度のスタッフ派遣予定

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1
スタッフ A						━	━						
スタッフ B								━	━	━			
スタッフ C													━

活動にあたっては、治安情報に注意するとともに、事件、事故などに遭わないように、次のように注意します。

病気予防では、日本人、マリ人スタッフの健康維持に留意し、衛生保持を行うとともに、感染症等の情報収集を実施し、薬剤を準備して対応します。

移動の交通では、整備された自動車の利用と交通事故に注意します。活動の時間は、できるだけ日没前に終了するように計画します。

現地の治安の状況によっては、計画が大きく変わることも考えられます。

国内活動－2019 年度活動報告・2020 年度活動計画

ミーティング・総会

＜会員総会＞
2019 年度の通常総会を JICA 地球ひろばで開催（3/24）

＜運営委員会＞
町田市民フォーラム他を利用して計 6 回開催
開催日：1/13（第 168 回）、2/11（169 回）、5/19（第 170 回）、7/15（第 171 回）、9/14（第 172 回）、11/24（第 173 回）

日本人スタッフ・ボランティアの派遣状況

＜2019 年度　派遣実施＞
坂場光雄　（5 月 24 日～7 月 26 日）
榎本肇　（8 月 5 日～10 月 20 日）

＜2020 年度　派遣予定＞
スタッフ A　（5 月頃～7 月頃）
スタッフ B　（8 月頃～10 月頃）
スタッフ C　（2021 年度 1 月頃））
（10 ページ表 5 「2020 年度のスタッフ派遣予定」参照）
＊マリ派遣に問題ないと判断された場合のみ派遣。

広報

＜現地活動報告会＞
活動報告会（JICA 地球ひろば）（榎本）（3/24）
帰国報告会（地球環境パートナーシッププラザ）（坂場）（9/14）
ミニ活動報告会（グローバルフェスタ内セミナーブース）（上田、原）（9/29）
＜お話会＞
座談会（奈良支部 島岡自宅）（島岡）（4/17）
＜機関誌「サヘル」他＞
サヘルの森定例活動 10 周年記念誌「ブラサカバ」（7/1 発行）
第 104 号（7/3 発行）／ フォト通信（8/28 発行）／ 第 105 号（12/18 発行）

学校との関係

＜お話の出前・資料貸し出し他＞
・横浜市立浦島丘中学校「廃品回収収益金委託式」（榎本、原）（4/17）

イベント

＜2019 年度　参加イベント＞
・みどりとふれあうフェスティバル 2019（日比谷公園）（5/11,12）
・グローバルフェスタ 2019（お台場・シンボルプロムナード）(9/28,29)
・みなこいワールドフェスタ 2019（長野県駒ヶ根市）（10/27）
・ジャパン・バードフェスティバル 2019（千葉県我孫子市：千葉支部）（11/2,3）

＜2020 年度　参加予定イベント（日程確定分のみ）＞
・みどりとふれあうフェスティバル（日比谷公園）（5/9,10）
　※コロナウィルスの影響で中止の可能性があります。

2019 年度はグローバルフェスタの会場で常設ブースとは別にミニ活動報告会を行うことができました。天気に恵まれブースにも多くの人が訪れ、バオバブフルーツパウダーやドライマンゴーなど人気の食品は完売が続出しました。
2020 年度は参加するイベントの取捨選択より効率的・効果的に活動できるようにします。イベントの開催日等詳細は、機関誌やホームページなどで告知します。ブースのお手伝いも大歓迎です。

機関誌サヘル

機関誌は例年通り、年 2 回発行しました。2019 年度は、定例活動の 10 年を記念して、「ブラサカバ」を発行しました。会員を中心に過去の参加者の方にも執筆のご協力を頂きました。実際に現場に足を運んでみるという、サヘルの活動の基本的な考えがよくわかる内容になりました。
手にとったらすぐに読めるフォト通信の復活を望む声もあり、久しぶりにフォト通信を発行しました。フォト通信の発行にあたっては（株）ネオ・コミュニケーションズ様のご協力に感謝申し上げます。
2019 年度は全ての発行物を印刷会社に発注したので写真をきれいにご覧いただけたと思います。

◆サヘルの森定例活動 10 周年記念誌「ブラサカバ」 2019 年 7 月 1 日発行
・定例活動 10 年間の記録と意義

◆サヘル 104 号　2019 年 7 月 5 日発行
・マリの道路　坂場光雄
・地方分権による土地売買と試験地　榎本肇
・総会の出欠ハガキ Q&A　/ 新運営委員のご挨拶　工藤義治
・会員番号物語：不思議な縁　柴泰登

◆フォト通信　　2019 年 8 月 28 日発行
・写真で見る里山再生 before after

◆サヘル 105 号　2019 年 12 月 18 日発行
・今夏の活動を終えて　　坂場光雄
・5 年目の里山再生実践　　榎本肇
・おもしろ在来種 vol:1　　坂場光雄
・会員番号物語：アフリカ未踏の事務局員　　原梓

牛乳パック回収

学校からの牛乳パックの回収活動も続けています。2019 年度は小岩第一中学校と浦島丘中学校で実施しました。
浦島丘中学校の資源委託回収式には、マリ大使館よりカマラ・マリエトゥ・ジャラ臨時代理大使（当時）も同席しました。大使の出席や大使館訪問交流などが生徒の皆さんや生徒会役員のモチベーションになっているようです。
回収した牛乳パックは古紙業者の（株）山田洋治商店様に買い取ってもらいました。また再生トイレットペーパーの購入をしてくださった方もいます。

ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

・小岩第一中学校（江戸川区）　　2 月 7 日回収：　80 キロ（1,120 円）
・浦島丘中学校（神奈川県横浜市）　　2 月 8 日回収：350 キロ（4,900 円）
（アルミ缶回収分、8,100 円のご寄付も頂きました。）

ホームページ・ブログ・Facebook

現在、ホームページ・ブログ・Facebook と、三通りの方法で活動の報告やイベント告知をしています。2019 年度はホームページに不具合が発生し、7 月以降更新作業ができませんでした。その分、ブログと Facebook での発信に力を入れましたが、早期復旧を目指します。ブログでは、現地で活動するスタッフのコラムなども沢山掲載していますので活動やマリの里山の暮らしにご興味がある方は是非ご覧下さい。

掲載ご希望の記事やイベント告知などありましたら、事務局までご連絡ください。

サヘル定例活動とサヘルキャンプ

＜2019 年度のサヘル定例活動報告＞

定例活動は、国内での会員交流、技術研修、人材育成などを目的としています。現場を見て歩くことにより、現在の自然や町並みを楽しみ、歴史・文化の積み重ねなどを学んでいます。7 月には定例活動 10 周年記念誌「ブラサカバ」を発刊しました。

2019 年度は天候不順で 1 回中止になりましたが、9 回は第 3 土曜日に実施できました。浅草橋の世界のカバン博物館ではマリの遊牧民のカバンが展示されていて、楽しい出会いがありました。ふだんはあまり足を運ばない都内や里山などを巡り、会員交流、学習などが出来たと思います。定例活動の様子は、一部をスタッフブログで画像付きで紹介しております。

2019 年度　サヘル定例活動の場所

1/19 多摩川七福神と多摩川緑地、2/16 多摩丘陵の里山をたどる、3/16 柏の宮公園と神田川遊歩道、4/20 根川緑道と立川公園を歩く、5/18 明治薬科大の薬草園と金山調整池、6/15 鳥越神社と世界のカバン博物館、7/20 肥後細川庭園と雑司ヶ谷、9/21 古い水運水路と地下鉄博物館、10/19 目黒天空庭園と西郷山(雨天中止)、12/21 小宮公園の雑木林を歩く

塚山公園の竪穴住居(3 月)

根川緑道の水路(4 月)

なぎさポニーランド(9 月)

＜2019 年のサヘルキャンプ＞

11 月 16 日(土)に瀬谷の中屋敷作業場(私有地)で実施しました。モウソウチク林や試験植栽木があり､活動できる空間があります｡会員を中心に14名の参加がありました。

竹を切って容器を準備し、焚火でマリのモリンガやバオバブパウダー入りのパンを焼きました。また、トゥアレグ風炊き込みご飯、野菜と肉のバーベキューをいただきました。ヤマモモの枝を煮てハンカチの草木染、マリで行っている苗木づくりの体験(挿し木)、シイタケの摘み取りもできました。

盛りだくさんのプログラムで説明不足、手が回らない点もありましたが、残った料理は無駄にせずに持ち帰り、片付けまでしっかりできました。
焚火は消防署への届け出が必要で、その手続きもしっかり行いました。

草木染の作業

肉を焼く

竹筒でパンを焼く

＜2020 年度のサヘル定例活動＞

定例活動は、国内での会員交流、技術研修、人材育成などを目的として行っています。緑を中心とした地域への訪問で、楽しみながら、学んでいきたいと思います。
期日は毎月第 3 土曜日中心に開催しますが、変更になることもありますので、確認してご参加ください。参加費はありませんが、別途施設の入場料金などがかかることがあります。楽に歩けるような身支度、飲用水、昼食持参をして、ご参加ください。

2020 年度定例活動計画

期日	場所	集合場所	備考
2020 年 1/18(土)	港七福神	都営大江戸線「赤羽橋」駅改札 10:30	麻布や六本木にある七福神の社寺を巡ります
2/15(土)	多摩の桜ヶ丘公園と古神社	京王相模原線「若葉台」駅改札 10:30	多摩丘陵の里山公園を歩きます
3/14(土)	平林寺と歴史民俗資料館	JR 武蔵野線「新座」駅改札 10:30	早春の平林寺と地域の歴史民俗を学びます。
4/18(土)	滝山城跡と少林寺	JR 中央線「八王子」駅改札 10:30	新緑の滝山丘陵を歩きます。
5/16(土)	亀井戸水神、大正民家園と荒川堤防	JR 総武線「亀戸」駅北口改札 10:30	江戸川・墨田区の旧中川、荒川と水に関する神社巡り
6/20(土)	庭園美術館、港区郷土歴史館	JR 山手線「目黒」駅中央改札 10:30	昭和初期の建物と庭園などを巡ります。
7/18(土)	日野ふるさと歴史館と黒川清流公園	JR 中央線「日野」駅改札 10:30	日野の歴史を学び、黒川段丘崖線の緑地を歩きます。
9/19(土)	赤塚公園、浄蓮寺の東京大仏	都営三田線「高島平」西改札 10:30	室町時代の赤塚城跡の緑地と新東京百景の大仏を見ます。
10/17(土)	区立美術の森と中村かしわ公園	西武池袋線「中村橋」駅改札 10:30	美術館の庭にあるモニュメントと防災公園を歩きます。
11/21(土)	サヘルキャンプ	相鉄線「瀬谷」駅改札 10:00	身体を動かし、体験学習と食事を楽しみます
12/19(土)	さくらの美術館とめぐろ歴史資料館	東急東横線「祐天寺」駅中央改札 10:30	さくらの絵画を楽しみ、目黒あたりの歴史を学びます。
2021 年 1/16(土)	雑司ヶ谷七福神	JR 山手線「目白」駅改札 10:30	池袋の南東にある雑司ヶ谷を巡ります。

2/20(土)	辰巳の森海浜公園と洲崎神社	東京メトロ有楽町線「辰巳」駅改札 10:30	東京湾の埋立地の緑地と江戸時代からの神社を巡ります。
3/20(土)	野沢稲荷と世田谷公園	東急田園都市線「駒沢大学」駅改札 10:30	世田谷の野沢、下馬、池尻あたりを歩きます

＜2020 年度のサヘルキャンプ＞

会員交流、自然観察、技術研修等を目的として実施しています。海外協力やボランティア、緑づくりの活動に関心のある人との交流などに取り組みたいと思います。マリ料理と竹林伐採体験、たき火、竹細工で楽しみ学びます。

期　日：2020 年 11 月 21 日（土）　　場所：瀬谷作業場など
集　合：相鉄線「瀬谷」駅 10：00
持ち物：長袖シャツ、帽子、飲用水、手袋、タオルなど
費　用：バス代（400 円）＋参加費(中学生以上 1500 円)

※参加費には昼食代（マリ料理）や保険料を含みます(未就学児無料、小学生 500 円)。

＊定例活動、サヘルキャンプへ参加希望の方は、変更になることもありますので、事前にサヘルの森までご連絡ください。定例活動の緊急連絡は電話でお願いします。
TEL:042-721-1601　FAX:042-721-1704　メール：sahel-no-mori@jca.apc.org

奈良支部（島岡てるみ）

2019 年度は 4/17 に島岡自宅にて約 10 名の友人・知人を招きお話会をしました。手料理を食べながらサヘルの写真パネルを使って活動の紹介をしました。自宅にあったサヘルグッズや事務局から送られてきたエプロンや鍋敷き、手作りのチャリティクッキーのミニバザーも行いました。2020 年度も同様の会を 2 回開催したいと考えています。できることを続けていきたいと思います。

静岡支部（戸本喜文）

2019 年度も東京方面のグローバルフェスタ等のイベントには参加していますが、最近は仕事の拠点が東京のため静岡県内の活動に力を入れられない状況が続いています。

個人的に強く関心があることは持続可能な開発目標（SDGs）と地球温暖化問題です。近年、今まで経験したこと無いような台風の被害が毎年のように各地で発生し「地球が壊れ始めているのでは？」と感じることがあります。アフリカも例外ではないでしょう。

2020 年度は我々の身近なライフスタイルの見直しとアフリカの温暖化問題について考える報告会的なものを企画できればと思っています。

千葉支部（高津佳史）

イベント欄にもありますように 11 月 2～3 日に「ジャパン・バードフェスティバル」に出展しました。国際協力とはあまり関係ない野鳥愛好家の催しですが、10 年近く毎年参加しているため常連さんとの交流が楽しみで、今後も継続したいと思います。

また、県内在住の会員さんからも活動の場を提供していただいています。この場をお借りして御礼申し上げます。毎年 2 月に野鳥観察会を開いているお寺（真光寺）は、ご住職が会員さんです。運営委員の上田隆さんが関わっている千葉市内のゴルフ場は、お勤めの会員さんのご協力で林の管理作業が実現したものです。

運営委員・監事名簿（2020 年）

代 表	坂場光雄	自営
運営委員	上田 隆	団体職員
	榎本 肇	自営
	工藤 義治	団体職員
	久保 隆一郎	会社役員（神奈川支部）
	高津 佳史	自営（非常勤事務局長、千葉支部）
	坂場 光雄	自営
	島岡 てるみ	主婦（関西支部）
	戸本 喜文	会社員（静岡支部）
監 事	大沼 こずゑ	主婦
	宮代 裕子	自営

任期は2020年4月～2021年4月です。

特定非営利活動法人　サヘルの森

〒194-0013　東京都町田市原町田 1-2-3
　アーベイン平本 403
TEL：042-721-1601　FAX：042-721-1704
（不在の時は留守番電話に伝言お願いします）

HP：http://www.jca.apc.org/sahel-no-mori/
E-mail：sahel-no-mori@jca.apc.org